

<原稿の種別> ←10.5pt・ゴシック・左詰め

## 『研究論集』原稿作成要領

←14pt・太ゴシック・中央

### —オンラインジャーナル版—

←12pt・太ゴシック・中央

1行スペース

複数執筆者の氏名と

長野太郎 信州大学教育学部教育科学講座

所属の先頭をそろえる→

善光寺太郎<sup>1</sup> 信州大学大学院教育学研究科

←12pt・太ゴシック・中央

1行スペース

キーワード：信州大学，教育学部，研究論集，原稿，作成要領

←10.5pt・ゴシック・中央

1行スペース

### 1. はじめに ←章見出し・10.5pt・ゴシック・左詰め

本誌はオンラインジャーナルとして発行し、本学部専用サイト及び信州大学機関リポジトリからインターネットを通じて公開される。

原稿は **A4 サイズ** を用いて作成し、枚数は原則として **20 ページ以内** とする。

余白は **天 35mm**，**地 30mm**，**左右 30mm** とする。

和文は横書きの場合、原則として、**本文が明朝体 10.5pt**，**1行 40 字×36 行程度** とし、句点は[。]，読点は[, ]を用いる。縦書きの場合、1行 32 字×21 行程度の上下 2 段構成（段間 10mm 程度）とし、その他の書式は横書きの場合に準ずる。本文中の数字、英文字のフォントは適宜統一すること（英文字のフォントは Times New Roman など）。

1行スペース ←章を変えるときは1行スペースをあげる

### 2. タイトル・副題・氏名・所属の書き方

原稿 1 ページ目の 1 行目に原稿の種別（学术论文，研究報告，実践報告，資料紹介，等）を<>囲みで記入する。2 行目に原稿の題目（副題がある場合には 3 行目），1 行空けて執筆者名と、投稿時または受理時の所属（本要領の記載例のとおり本学在籍時の所属を書き、異動後の所属を脚注に示すことも可），1 行空けてキーワード（3～5 語），1 行空けて本文を書き始める。フォント等は上記の網掛けの指示に従うこと。

1行スペース

### 3. 見出しおよび図表について

#### 3.1 見出し ←節見出し・10.5pt・ゴシック・左詰め ←節の場合は上1行スペースをあげない

本文を章，節，項に区切る場合は、章の見出し番号は **1. 2. …**（全角），節の見出し番号は **1.1 1.2 …**（半角），項の見出し番号は **(1) (2) …**（半角）とし、行の左からゴシック体で書き、本文はこれと行を変えて 1 コマ空けて書き出すものとする。

#### (1) 見出しの早見表 ←項見出し・10.5pt・ゴシック・左詰め ←項の場合も上1行スペースをあげない

以上をまとめると、表 1 のようになる。

<sup>1</sup> 現所属：信州大学教育学部附属長野小学校

表1 見出し表記のしかた ←表の題 9pt・明朝

|         |                |       |        |
|---------|----------------|-------|--------|
| 章の見出し番号 | 1. 2. … (全角)   | ゴシック体 | 10.5pt |
| 節の見出し番号 | 1.1 1.2 … (半角) |       |        |
| 項の見出し番号 | (1) (2) … (半角) |       |        |

(注) 英文見出しのフォントは Arial にする。 ←表の注 9pt・明朝

### 3.2 図および表

図（写真を含む）および表は本文中の適切な位置に貼り込むこと。カラー図表・画像も掲載できる。原則として図表に枠は付けない。

図の題は図の下に、表の題は表の上に、9pt 明朝体を用いて付けること（図表の注も 9pt 明朝体）。



図1 レンガ庫内の長野師範学校蔵書 ←図の題 9pt・明朝

## 4. 文献と注の書き方

### 4.1 本文中での引用のしかた

基本的に、下の(1)または(2)のいずれかに従うこと。

要点は、一貫性のある、合理的な書き方をしていることである。一貫性や合理性において十分ではない、または恣意的であると考えられる場合は、研究委員会において合議し投稿者に修正を求めることがある。

#### (1) 著者名の表記文字を利用した引用

執筆者と発行年を記し、特に文章を直接に引用した場合は該当ページも示すこと。

同じ執筆者が、同じ発行年に複数の論文を発表し、両方を引用する場合は、発行年の後に、a, bなどを付けて区分すること。(次の例参照)

Smith (2009), 山田 (2010a, 2010b) によれば、・・・

小林 (2011) が提唱する献立 (p. 90) は、・・・

近年、「児童において・・・が見られる。」(鈴木, 2005, p. 58) ※「 」内が直接引用

## (2)本文中で指示または引用した順番を利用した引用

本文中での引用のしかたは、上付き半カッコ数字を付ける。

Smith (2009)<sup>1)</sup>、山田 (2010)<sup>2)</sup> によれば、・・・ ※発行年は付けられない例もある

ここで取り上げる献立<sup>3)</sup> は、・・・

近年、「児童において・・・が見られる。」<sup>4)</sup>

※「 」内 p.58 は文献欄に記載。本文中に記載する例もあり。

この解釈の一例として<sup>5)</sup>、・・・

※ 本文において同一の箇所に複数の引用がある場合は、下のように半カッコ番号をカンマで区切って分離を強調すること。

当該理論を支持する知見が複数報告されている<sup>6), 7)</sup>。

## 4.2 本文中での注番号の書き方

基本的に、下の(1)または(2)のいずれかに従うこと。

### (1)注番号を、上付きとし、半カッコを付けない方法

本稿では高学年に限定して記述した<sup>1)</sup>。

### (2)注番号を、“注”を頭に付けた上付きとし、半カッコを付ける方法

これは、文献の書き方について、「本文中で指示または引用した順番を利用した引用」を採用した場合に、注番号と文献番号が混乱することを避けるための方法である。

本稿では高学年に限定して記述した<sup>注1)</sup>。

本稿では高学年に限定して記述した<sup>1), 注1)</sup>。 ※文献番号も必要とされた例

このほかの要領として、注番号を上付き、太字指定するという方法もある（下例）。

本稿では高学年に限定して記述した<sup>1)</sup>。 一方、山田<sup>1)</sup>によれば・・・。

※ <sup>1)</sup> が注番号（太字になっている）、<sup>1)</sup> が文献番号。

## 4.3 脚注

脚注を設ける場合には、実線によって本文と区別し、9pt 明朝体を用いて、行間は本文の 80%程度とする。

## 5. 提出書類

次の表2に示したもの（○印）を本学部図書館主査に提出すること。審査または校閲後は執筆者による校正の機会はないので、誤字・脱字などがないよう慎重に作成すること。投稿された原稿は原則として返却しない。

表2 提出書類一覧

| 原稿の種別          | 提出届（所定の様式）         |             | 原稿                    |       |              |
|----------------|--------------------|-------------|-----------------------|-------|--------------|
|                | 電子ファイル<br>（Word形式） | 紙媒体<br>（原本） | 電子ファイル<br>（Word・一太郎等） | 紙媒体   |              |
|                |                    |             |                       | 原本    | マスキング<br>コピー |
| 学術論文           | ○                  | ○（1部）       | ○                     | ○（1部） | ○（2部）        |
| 研究報告/<br>実践報告等 | ○                  | ○（1部）       | ○                     | ○（1部） | —            |

### 5.1 提出書類の注意事項

- ・カラー図表等がある場合は、カラー印刷で提出すること。
- ・マスキングコピー2部は、執筆者名、所属等の執筆者が判明する箇所を削除する。
- ・紙媒体の提出原稿には、ページ番号を鉛筆書きで右上に付すこと。

## 6. その他

研究委員会で、完成原稿にランニングヘッド、通しのページ番号、受付・受理年月日を挿入する。ランニングヘッドは提出届の所定欄に記入すること。タイトルが長い場合は、和文は概ね25文字、欧文は概ね50文字以内に省略する。

1行スペース

注 ←見出し・10.5pt・ゴシック・中央

注はこの位置に置く。明朝体 10.5pt。

- 上記4.2(1)「注番号を、上付きとし、半カッコを付けない方法」に対応した「注」の書き方

注

1 低学年のケースは他書を参照されたい。

- 上記4.2(2)「注番号を、“注”を頭に付けた上付きとし、半カッコを付ける方法」に対応した「注」の書き方

注

注1 低学年のケースは他書を参照されたい。

※「注」の中で、さらに文献を引用する場合は下のように引用の番号を書くこと（「文献」の欄に題目・所蔵などを記載する）。

注1 低学年のケースは他書<sup>29)</sup>を参照されたい。

1行スペース

謝 辞 ←見出し・10.5pt・ゴシック・中央

謝辞は「注」と「文献」の間に置く。明朝体 10.5pt。

1行スペース

文 献 ←見出し・10.5pt・ゴシック・中央

基本的に、章の見出しは「文献」とする。各研究領域の慣習や原稿作成要領により「引用文献」あるいは「引用文献・参考文献」とすることも可。ただし、本文中では触れていないが論文作成に関係しているものとして初出の文献を掲載する場合は、本文中で触れた文献リストの後に記し、その旨末尾にカッコ書きで付記する（例えば「関係論文」など）。文献リストのフォントは明朝体（英文の場合は Times New Roman など）で 10.5pt。

●上記 4.1(1)「著者名の表記文字を利用した引用」に対応した「文献」の書き方

#### 文 献

小林一郎 (2011). *四季の食事*. 東京: 盛夏出版.

Smith, M. (2009). The effects of supports. *Journal of Life*, 41, 300-315.

鈴木花子 (2005). 食と創造性. *食育研究*, 30, 55-65.

山田太郎 (2010). 夜食の分析: 大学受験生を対象に. *食育研究*, 35, 100-110.

Zed, A. (1995). *Writing academic papers*. London: Shinano University Press.

※ 上の例は APA（アメリカ心理学会）第 5 版の方法に従っている。和書・洋書を混ぜて ABC 順に並べている。和雑誌では「あいうえお」順をとる例もある。

APA では、著書全体・論文全体の所蔵情報を掲載する。本文中で特定のページを引用した文献も載せる（ただし引用したページ番号は本文中に明示）。著書タイトル、掲載雑誌タイトル（論文タイトルではない）は斜字体を用いる。日本語論文タイトルは「」で、和雑誌タイトルは『』で括ってもよい（上の例では英語にあわせて斜体字を用いている）。

※ 上の例は数多の学術誌のほんの一例。たとえば、APA では執筆者の直後に発行年が来るが、発行年を当該行の末尾に置く例もあるので、それぞれの原稿投稿者が所属する学会の学術誌の書式に従うこと。

- 上記 4.1(2)「本文中で指示または引用した順番を利用した引用」に対応した「文献」の書き方

文 献

- 1) Smith, Marry : The effects of supports. *Journal of Life*, vol. 41, pp. 300-315. (2009)
- 2) 山田太郎 : 大学生のコミュニケーションスタイルの分析, *心理学研究*, 45 巻, pp.100-110. (2010)
- 3) 小林一郎 : *四季の食事*, 盛夏出版 (2011) p.90
- 4) 鈴木花子 : 食と創造性, *食育研究*, 30 巻, pp.55-65. (2005) p.58
- 5) 同上, p.60

※ 著者名から右の、年号、タイトル、所蔵情報の書き方は一例である。各学会誌の執筆要領に従うこと（上の例ではタイトルを斜字体にしているが、「」や『』を用いる要領もある）。

1 行スペース

付 記 ←見出し・10.5pt・ゴシック・中央

付記は最後に置く。明朝体 10.5pt。

【英文論文の例】

<Article Type> ←10.5pt, Arial, left aligned

**Main Title of the Article:** ←14pt, bold, Arial, centering

**Subtitle of the Article** ←12pt, bold, Arial, centering

1 blank line

**NAGANO Taro Faculty of Education, Shinshu University** ←12pt, bold, Arial, centering

**ZENKOJI Taro Nagano Elementary School, Shinshu University**

1 blank line

Keywords: Shinshu University, Education, Journal, paper, format ←10.5pt, Arial, centering

1 blank line

1. Introduction ←Heading, 10.5pt, Arial, left alignment

The font for the body is Times New Roman (10.5pt).

英文の場合、原則として本文のフォントは Times New Roman で 10.5pt、1 行 80 字×36 行程度とする。和文のゴシックに相当するフォントとして Arial を用いる。

タイトル等は上記の網掛けの指示に従うこと。英文名は、姓、名の順番とし、姓は全て大文字、名は語頭を大文字以下小文字とする。

章などの見出しは Arial とし、その他の書き方は和文に準ずる。

執筆者の責任において、母語話者のチェックを行うこと。

以上